

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	令和5年度 第1回入間市博物館協議会
開 催 日 時	令和5年7月14日(金) 午前10時00分開会・午前11時55分 閉会
開 催 場 所	入間市博物館 会議室
議 長 氏 名	奥田貴哉(会長)
出席者氏名	中林敦子(副会長) 加藤公章 国府則子 平田和雄 小暮欽作 西澤明 里見和子 斎藤次雄
欠席者氏名	早野珠南
説明者の職氏名	澤田館長 大久保主幹 津久井主幹 栗原主幹 梅津副主幹 小田部副主幹 いるまミュージアムパートナーズ・馬見新責任者
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	<令和5年度 第1回入間市博物館協議会> 1 開 会 2 博物館長あいさつ 3 博物館協議会の運営について 4 会長、副会長の選出 5 会長、副会長あいさつ 6 議 事 (1)報告事項 ①令和4年度入間市博物館事業報告について ②令和5年度入間市博物館事業計画について (2)協議事項 ①「食文化ミュージアムとしての『お茶の博物館アリット』の運営」について (3)その他 7 その他 8 閉 会 公開・非公開の別 全て公開
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	1人
配 布 資 料	資料1 入間市博物館協議会委員名簿 資料2 職員名簿(令和5年度) 資料3 博物館開催事業一覧表 資料4 令和5年度入間市博物館事業計画 資料5 入間市博物館年度別利用状況 資料6 令和4年度いるまミュージアムパートナーズ自主事業企画一覧 資料7 令和5年度いるまミュージアムパートナーズ自主事業予定一覧 協議事項「食文化ミュージアムとしての『お茶の博物館アリット』の運営」 向けの現状と課題、目指す方向性
事務局職員職氏名	中田教育長 浅見部長 澤田館長 津久井主幹 栗原主幹 大久保主幹 梅津副主幹 小田部副主幹 いるまミュージアムパートナーズ・馬見新責任者
会議録作成方法	要点筆記

会議録(2)

議事の概要(経過)・決定事項	
議事の概要 (経過)	<p><令和5年度 第1回入間市博物館協議会> 6 議事 (1)報告事項 ①令和4年度入間市博物館事業報告について ②令和5年度入間市博物館事業計画について (2)協議事項 ①「食文化ミュージアムとしての『お茶の博物館アリット』の運営」について (3)その他</p>
決定事項	<p><令和5年度 第1回入間市博物館協議会> 6 議事 (2)協議事項 ①「食文化ミュージアムとしての『お茶の博物館アリット』の運営」について 資料【協議事項「食文化ミュージアムとしての『お茶の博物館アリット』の運営」について】に関して事務局より説明し、質疑応答がされた。 (3)その他 次回の博物館協議会を9月中に実施予定となった。</p>

会議録(3)

発 言 者	発 言 内 容
奥田会長(議長)	<p>6 議 事</p> <p>それでは、これより議事に入ります。 (1)報告事項ですが、最初に①「令和4年度入間市博物館事業報告について」です。 この博物館の活動実績となるものですから、新任の委員の皆様はもちろん、再任の委員の皆様にも、改めて確認しておきたいと思います。では、簡単に事務局より報告していただきます。</p> <p>【事務局より説明】</p>
奥田会長(議長)	<p>それでは、ただ今の事務局による説明に対しまして、ご意見、質問がありましたらお願いします。 無いようですので、次に移ります。次に②「令和5年度入間市博物館事業計画について」、事務局より説明をお願いします。</p> <p>【事務局より説明】</p>
奥田会長(議長)	<p>それでは、ただ今の事務局による説明に対しまして、ご意見、質問がありましたらお願いします。</p>
平田委員	<p>博学連携事業でオンライン授業の取り組みが始まっておりますが、何らかの効果はあるのでしょうか。</p>
栗原主幹	<p>効果としては教室にて教科書を参照しながら授業を行うことで、より学校の教育課程に沿った学習ができているよう感じております。またこれまでの博物館への移動時間がなくなることで授業時間の確保にも繋がっている面もあるかと思われます。</p>
津久井主幹	<p>アンケートを確認しますと、オンライン授業を通して「アリットに行ってみたい」という感想もございます。オンライン授業が新たなお客様を招くきっかけにもなりえると思われます。新しい授業の形を通して、私たちのスキルアップにも繋がる面もあります。</p>
平田委員	<p>オンライン化による効果もあるのかもしれませんが、博物館にお越しになって体験することがなくなることは残念に思います。</p>
西澤委員	<p>オンライン授業や動画等を通して博物館に興味を持ち、来館してから体験してもらうという流れがオンライン化においては重要になると思います。</p>
里見委員	<p>中学校の茶席体験では短い時間で説明も行うため、風情を感じる暇がないと感じることがあります。オンラインにて茶道への事前学習を行うことで説明時間が減り、風情を感じられるようにならないでしょうか。</p>

津久井主幹	現状、小学校6年生の社会や理科の授業へのカリキュラムへの活用が中心となっております。中学校の茶席体験やタブレット授業を行うところもございますので、今後積極的に検討しより良いものにしていければと思います。
斎藤委員	博物館法改正により変更された項目はどこに反映されているのでしょうか。
津久井主幹	新規事業は厳しい面があり、既存の事業においてインバウンド等への対応幅を広げていくことを研究していければと考えております。
斎藤委員	事業がお茶に偏りすぎている気がします。総合的な博物館ですし、もう少し広い幅を持たせても良いのではないのでしょうか。
梅津副主幹	総合博物館ということは我々も自認しております。特に昨年度は歴史の展示室をリニューアルし、歴史の部分に力を入れました。お茶だけではなく、自然や歴史についても取り上げております。ただ、そういった面が事業の中には出て来づらいのかもしれない。
澤田館長	先ほどの法改正についてですが、国際交流という視点においては姉妹都市であるヴォルフラーツハウゼン市から青少年の訪問が予定されております。今後、インバウンドでお越しになるお客様の対応についても、コロナで止まっていた時間を盛り返すために取り組まねばならないと思います。観光産業との連携につきましては、指定管理者より YouTube チャンネルという新しい取り組みを提案いただきまして、現在進めているところとなります。こういった事業計画の中には掲載されておきませんが、準備しているものもございますので、今後協議会を通じて発表させていただければと考えております。
加藤委員	話が戻りますが、オンライン授業に関しては学校としては非常に助かっております。学校の授業の進度に応じて融通を効かせ、専門的な説明をしていただけるという点でありがたいです。ご提案としては、オンラインの弱点は体験の部分です。縄文土器や歴史的な資料など貸出備品を充実させるのはいかがでしょうか。
津久井主幹	是非、取り組んでいければと思います。博物館・学校連携事業研究委員会もありますので、そういったところでも検討していければと考えます。
中林副会長	クロスプロジェクトについて元は旧黒須銀行の復元工事のためのものが始まりだったと思います。今は色々やっている印象がありますが、どのような定義のものとして認識すればよろしいでしょうか。
大久保主幹	クロスプロジェクトに関しては、旧黒須銀行の復元修理工事についてメインに進めていたところ、その後の活用の方向性や運営について「もっと幅広く考えていったほうが良いのではないか」というご意見をいただき、博物館で旧黒須銀行を保存活用するために考えたものとなります。旧黒須銀行を中心しつつ、西洋館や武蔵豊岡教会といった歴史的な建造物を結び付け活用幅を広げていければと思います。これは将来的な構想であり、まずは10月以降の旧黒須銀行の復元修理工事に入る形となります。ただ、今後は将来的には他の歴史的建造物等も幅広く活用したクロスプロジェクトとして発展させていければと考え、方向性や運営を検討しております。

中林副会長	ありがとうございます。
奥田会長(議長)	国府委員は何かご意見はございますか。
国府委員	オンライン授業については興味を持ってもらえるきっかけになるので良いことではないかと考えました。
奥田会長(議長)	私のほうからも伺いたいのですが、小学校でオンライン授業をやるときは大きなモニター1台を用いているのでしょうか、それとも子どもたちが1台ずつ持っているのでしょうか。
栗原主幹	子どもたちが1人1台タブレットを持っております。同時に大型モニターも設置しており、音は大型モニターからのみ流れるという形となっております。
奥田会長(議長)	タブレットとなると画面が小さく良く見えないといった問題を聞くことがあります。オンライン授業も良いと思いますが、オンライン一辺倒だけでなく実地の形も必要な気がします。色々な意見を聞きながら進めていくのが良いのではないかと思います。
西澤委員	インバウンドの話がありましたが、コロナ前に大手旅行会社が茶畑に興味を示していただけましたがコロナでとん挫したことがありました。今後、インバウンドを受け入れるつもりがあるのであれば、多くの外国人の方を受け入れていただければと思います。
奥田会長(議長)	他にありますか。無いようでしたら、(2)協議事項に移りたいと思います。今期、私たち協議会が協議する議題につきまして、ご説明をお願いします。
	【事務局より説明】
奥田会長(議長)	それでは、ただ今の事務局による説明に対しまして、ご意見、質問がありましたらお願いします。
西澤委員	食文化についてはお茶の内容がメインということによろしいですか。
津久井主幹	文化庁として食文化ミュージアムとして認定された対象がお茶となります。食文化ミュージアムとしてのお茶の博物館アリットとなっているのはそういった経緯がございます。
西澤委員	事業の成果は来場者数の増加により判断するというによろしいですか。
津久井主幹	それは指標として1つの大きな要素になると思います。ただ、それだけではなく、質的に「こういったものがあればいいのではないか」という意見をいただければこちらとしても目標にできるので非常にありがたいです。
西澤委員	営利目的ではないですが、事業的な利益を出していくような努力も必要になると思います。狭山市のお茶屋さんが5月から11月まで茶摘み体験をしているという話もあります。参考にすれば5月以外にも茶摘み体験ができるかもしれません。

小田部副主幹	人手も資金も少ない状況下の中で持続可能な食文化ミュージアムの運営をしなければなりません。市の行事も大きく変わってきておまして全て公費で賄うのではなく、収益を得て事業へと還元していくというお金の循環を生み出す事業を生み出すことが目標、使命となっております。収益が上がる方法で委託なり人員を確保する流れを生み出すご提案をいただければと思います。
西澤委員	お茶をメインにするだけだと集客力が弱いので色々なものを組み合わせ、そこにお茶も入れるという形もありだと思えます。
小田部副主幹	お茶をメインにすると集客力が弱いとのことでしたが、当館はお茶の博物館という認知が上がっており、お茶大学においては多くの講座で定員を超え抽選をせねばならないほど申し込みが来ます。学校からは茶摘み体験やお茶体験をしたいという要望も極めて多いです。現状、それがやりたくてもできない状態を打破したいものです。そのための方法を皆様にもご検討いただければと思います。
奥田会長(議長)	協議会には茶業協会の会長様もいらっしゃいますし、連携して狭山茶振興も視野にあたっていければと思います。 他にありますか。無いようでしたら、以上をもちまして、議長の職を降ろさせていただきます。御協力ありがとうございました。

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

2023年9月14日

議長の署名

奥田貴哉

議長が指名した者の署名

加藤公章